

かみくらがいちいせき

## 4. 上蔵垣内遺跡

所在地：坂井市坂井町蔵垣内・五本

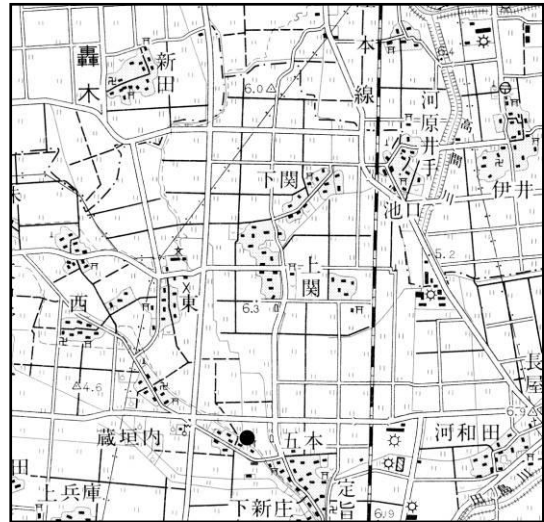
調査原因：県営かんがい排水事業西江・中江地区

調査期間：平成 22 年 4 月 1 日～9 月 30 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,080 m<sup>2</sup>

時代：平安時代、中世、近世



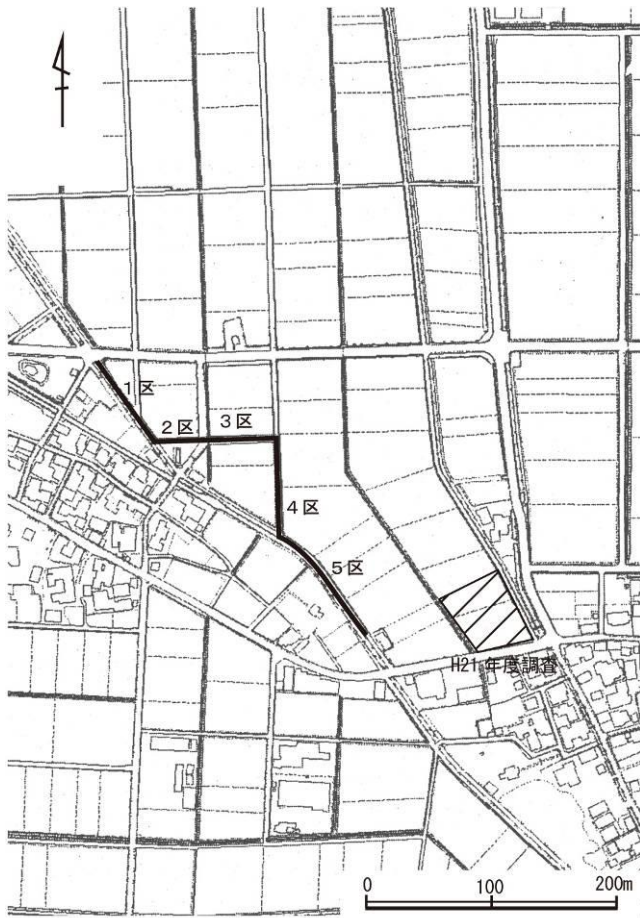
位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 永平寺町鳴鹿大堰から引かれた十郷用水は、坂井市坂井町五本で各用水に枝分れして流れていきます。その十郷用水の老朽化による維持管理費の増大、都市化に伴う生活ゴミの流入等による水質悪化などがあり、県では既設用水をパイプライン化する事業に着手しました。平成 21 年度発掘調査した部分は、十郷用水の分水施設にあたります。今回の調査は、その分水施設から各用水に枝分れするひとつ、西江・中江用水のパイプライン埋設部分にあたります。調査箇所を道路などで区切り 5 区に分けて調査しました。

**遺構** 1・2区では溝 9 条を検出しました。溝の方向は南東から北西方向が 7 条、南西から北東方向が 2 条です。これらの溝からは遺物がほとんど出土していないため、時期は不明です。3・4区は、土坑・井戸・溝・ピットなどを検出しました。土坑・井戸は約 100 基検出しました。井戸の大きさは径 1～2 m と大小があり、深さは 2 m までです。井戸の構造は、穴を深く掘っただけの素掘りが大半です。井戸の多くは中・近世のものです。また、ピットの中には底に石が置かれていたものもあり、建物の柱穴の可能性も考えられます。5区は、廃棄土坑（ゴミ穴）が大半で、井戸・溝も検出しました。井戸のひとつは、木組みの枠を持つ構造をしていて、その中から桶が出土しました。これらの遺構は、近世のものばかりです。

**遺物** 3・4区は、中世の陶磁器・越前焼・漆器などを中心で、須恵器も出土しています。また、石臼などの石製品も出土していて、5区からは、近世の陶磁器が主に出土しました。

**まとめ** 3・4区の密集する多くの井戸は、これまでの発掘調査の類例からも飲料水用ではなく、灌漑用のものと考えられます。一方で、これらの井戸のよって中世以前の遺構が壊された可能性があり、中世以前の遺構ははっきりしませんでした。 (青木隆佳)



調査区位置図 (S = 1/6,000)



1区全景 (南東から)



2区全景 (西から)



3区全景 (東から)



4区全景 (北から)



5区全景 (北西から)